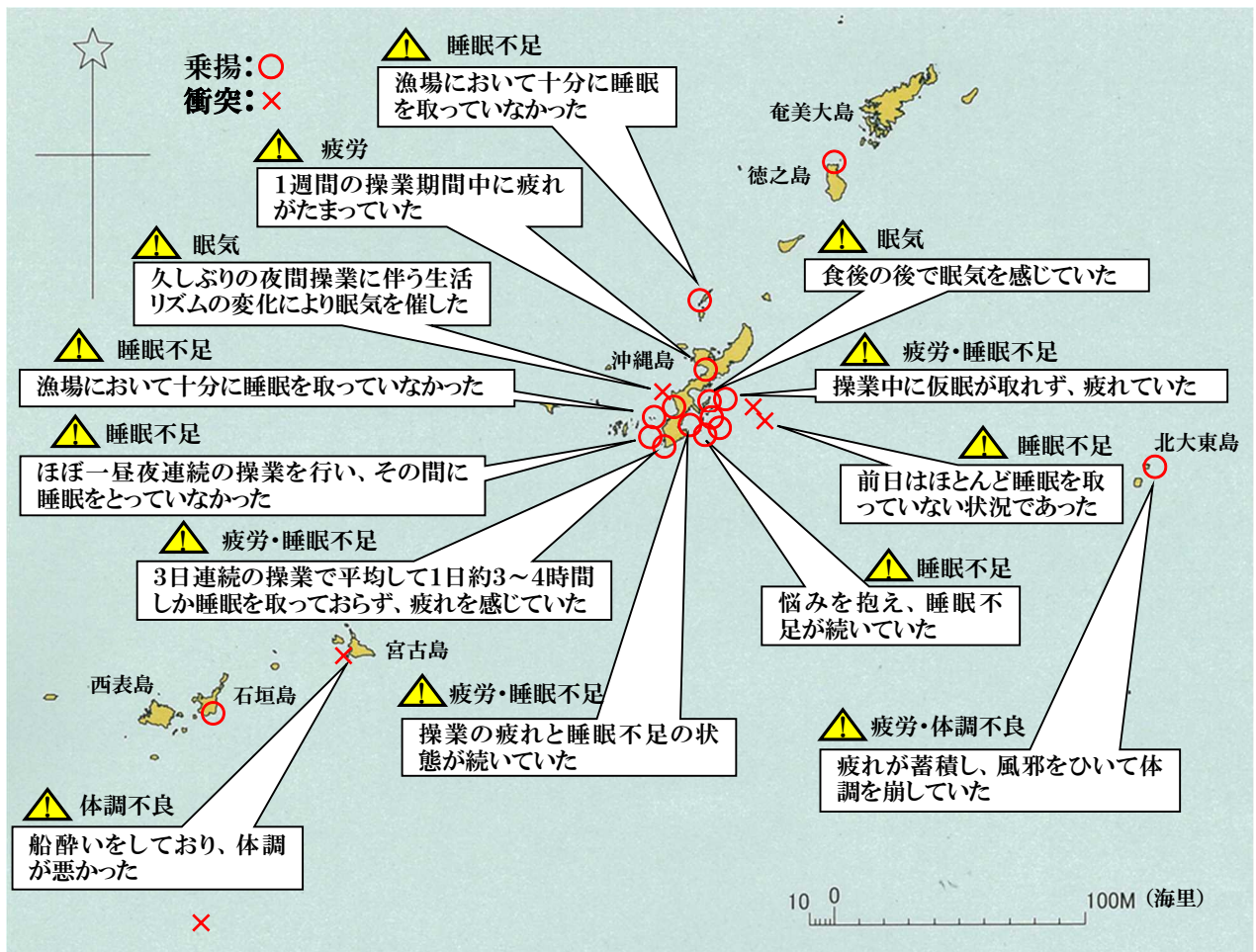


居眠りの主な要因は、 睡眠不足と疲労！

～沖縄周辺の海域における漁船の居眠り運航事故防止に向けて～



事故発生場所及び居眠りに陥った主な要因

平成28年12月



運輸安全委員会事務局那覇事務所

⚠ 居眠り運航事故は、漁船が83%！

‘当直者が居眠りに陥ったことによる事故’（以下「居眠り運航事故」という。）は、様々な船種で発生していますが、那覇事務所が管轄する区域（沖縄周辺の海域）では、**漁船の占める割合が83%**となっています。（平成23年～27年に報告書を公表した事故）

【各地方事務所別の居眠り運航事故発生状況】

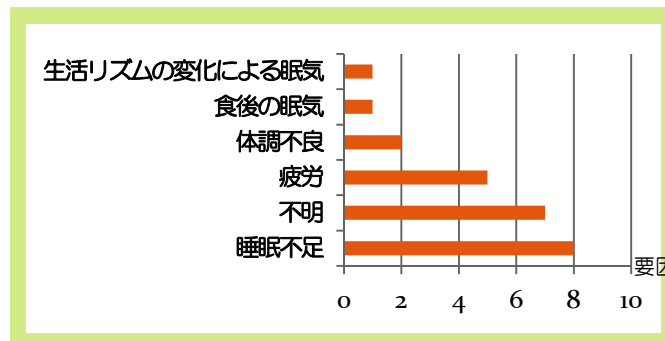
	那覇	函館	仙台	横浜	神戸	広島	門司	長崎
漁船(件)	20	20	23	15	18	16	30	35
貨物船・タンカー(件)	1	1	3	6	13	33	8	9
引船・押船(件)	1	0	0	1	4	7	0	2
その他の船舶(件)	2	0	2	5	6	7	0	1
合計(件)	24	21	28	27	41	63	38	47
漁船の占める割合	83%	95%	82%	56%	44%	25%	79%	75%

※ 東京管轄の重大事故を除く

このことから、本資料では、那覇事務所が取り扱った漁船の居眠り運航事故20件の傾向と事故調査事例を紹介します。

⚠ 居眠りの主な要因は、睡眠不足と疲労！

【居眠りに陥った主な要因】



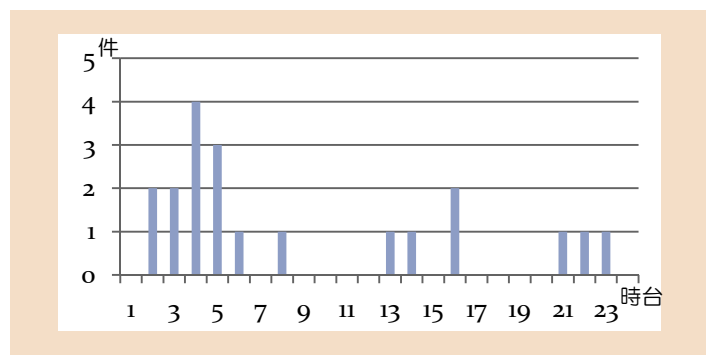
居眠りに陥った要因（1件の事故に対して要因が複数の場合もある。）では、「睡眠不足」と「疲労」が多くなっています。

「睡眠不足」となった理由には、悩みを抱えて数ヶ月前から安眠できなかったこと、ほぼ一昼夜連続の操業を行い、その間に睡眠をとっていなかったことなどがありました。

※ 表紙の事故発生場所の図に、居眠りに陥った主な要因を記載しています。

⚠ 居眠り運航事故は、未明から明け方に要注意！

【居眠り運航事故の発生時間帯】



居眠り運航事故の発生時間帯は、2～5時台、16時台に2件以上発生しており、特に4時台が4件で最多となっています。



椅子に腰掛けて自動操舵中にいつしか居眠り運航に！

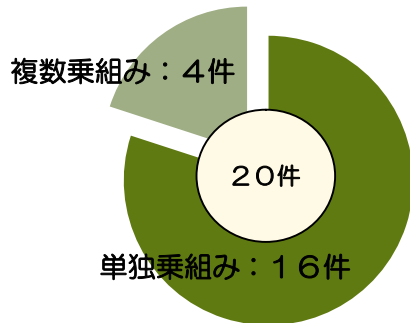
【当直者の姿勢及び運航状態】

居眠りに陥った際の 当直者の姿勢／運航状態	件数
椅子などに腰を掛けていた／自動操舵中	15
椅子などに腰を掛けていた／手動操舵中	1
椅子などに腰を掛けていた／不明	2
休憩室でテレビを視聴していた／漂泊中	1
不明／手動操舵中	1

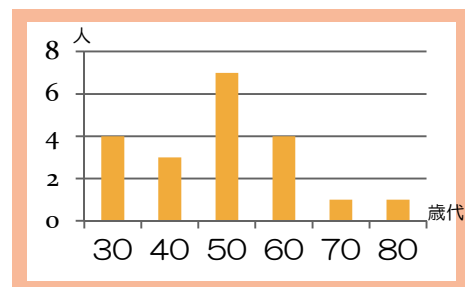
居眠り運航事故は、当直者が椅子などに腰を掛けて自動操舵で航行中に15件が発生しています。

長い間、楽な姿勢を続けると眠ってしまうことがありますので、特に椅子などに腰を掛けて自動操舵で運航しているときは、時々立ち上がって体を動かすことが居眠り防止には有効です。

【乗組み状況】



【当直者の年齢】



事例1：出漁中、睡眠をとらなかったため、居眠りに陥って浅所に乗り揚げた事例

概要：本船（4.47トン）は、船長1人が乗組み、ほぼ一昼夜の操業を終え、沖縄県那覇市那覇港へ向けて航行中、平成26年7月29日08時28分ごろ沖縄県糸満市喜屋武埼西方沖のルカン礁に乗り揚げた。

本船は、船底に破口を生じ、その後、全損となったが、死傷者はいなかった。

本事故の発生状況

本船

那覇港向け、ルカン礁南方沖を約9ノットの速力で自動操舵により、北進した

出漁中に睡眠をとらなかったため、帰途につく際に眠気を感じていた

ルカン礁の手前で変針するつもりで操舵室の椅子に腰掛けていたところ、居眠りに陥った

乗揚

ふだん、船長ほか1人が乗組みであり、交代で休息をとるようにしていたが、乗組員が入院していたので、船長が1人で出漁した

※ 緑色はさんご礁

1 0 5M (海里)



再発防止策

- ・ 操業中、適宜に休息をとること。
- ・ 操業及び運航形態に応じて適切な乗組員を確保すること。

事例 2：パナマ籍貨物船（A船）と操船者が居眠りに陥った漁船（B船）とが衝突した事例

概要：A船（6,773トン）は、船長及び航海士Aほか16人が乗り組み、読谷村残波岬南西方沖を北進中、B船（9.7トン）は、船長B及び甲板員が乗り組み、同岬南西方沖を南東進中、平成26年9月20日16時56分ごろ両船が衝突した。

A船は、バルバスバウに擦過傷、B船は、右舷中央部から後部にかけての船側外板に破損等を生じたが、死傷者はいなかった。

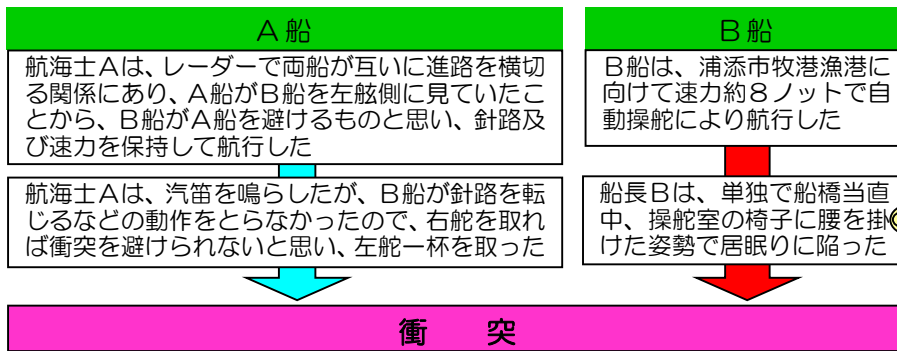


A船



B船の損傷箇所

本事故の発生状況



船長Bは、台風の影響でしばらく漁を休んでおり、久しぶりの夜間作業に伴う生活リズムの変化により眠気を催した



再発防止策

- 船橋当直中に眠気を感じた場合は、体を動かしたりするなどして眠気を払うこと。
- 眠気を払うことができないときは、当直を交代してもらうこと。

まとめ

◆ 当直中に眠気を感じたら・・・

楽な姿勢を続けると眠ってしまうことがありますので、時々、椅子から立ち上がって体を動かしましょう！

また、操舵室の外に出て外気に当たったり、コーヒー等を飲んだり、ガムを噛んだりするなど、ちょっとした刺激を与え、眠気の解消に努めましょう！

他の乗組員に当直を代わってもらうことが可能であれば、当直を交代してもらいましょう。

1人乗組みの漁船には、居眠り防止装置を設置することも有効です。

◆ 睡眠不足、疲労を感じたら・・・

睡眠不足のときは、短時間の仮眠をとることで頭がすっきりするとされていますので、無理に運航を続けず、安全な場所で船を止めて適宜休息しましょう！

疲労による居眠りを防止するには、日頃から十分な休息をとることが最も大切です。

運輸安全委員会事務局那覇事務所

〒900-0001 沖縄県那覇市港町 2-11-1 那覇港湾合同庁舎8階

TEL 098-868-9335 FAX 098-862-8156

那覇事務所代表メールアドレス nahjim-u63ze@mlit.go.jp

運輸安全委員会ホームページ <http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>

